

Title	英国労働問題に関する新刊書
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.8 (1920. 8) ,p.1148(120)- 1149(121)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200801-0120

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

雜 錄

英國勞働問題に關する
新刊書

堀江 歸一

P. H. Kellogg and A. Gleason—British Labor and the War. pp. VIII. 504.
M. B. Hammond—British Labor Conditions and Legislation during the War. pp. V. 335.

英國の勞働問題は歐洲戰爭の爲めに、意想外の影響を蒙つて、其局面に一大變化を來した。戰爭が終熄したならば、總て勞働上の狀況は舊狀に復するもの、又復せしめなければならぬものと想像されて居つた、殊に軍需品法の制定に

際し、英國勞働組合が同法の規定に服従することゝ爲つたのは、戦後に於ける復舊を條件とした結果であつた。然るに戰爭の終熄した今日に爲つて見ると、勞働上の狀況を戦前と同じやうに復舊させると云ふ説は必ずしも實行されない、之を實行しないのは、勞働問題に對する思想の根柢に大なる動搖を來したことを以て、一個有力なる原因としなければならぬ。保守を事とし穩健を旨とする一部の入々の主張する勞働委員會制度や、急進を標榜する人々の社會改造論の如きは、戰爭前の狀況に遡つて考へれば、何れも勞働問題の現状を打破せんとするものに外ならないのである。

標題に掲げた二個の書物は何れも最近に出版されたものである。エム、ビー、ハムモンド氏は合衆國オハイオ州立大學の教授で、カーネギー平和財團の部員として、英國戰時の勞働狀

新時代が望む新著參種

文學博士米田庄太郎先生序
日本大學教授
圓谷弘先生著

高島素之先生譯

クロボトキン原著
高島素之序
中山啓譯

◎田園・工場・仕事場
の全貌・本日發賣！
待ちに待たれし本書愈々市場に出づ

名探の經濟學說

クロボトキンの無政府主義は人類を現る悪魔の聲が、社會を地獄より救はんとする神の啓示か。社會の進歩によつてマルクスは社會主義の實現を望み、クロボトキンは無政府共産制の實現を信ず。一者果して何れが眞ぞ。此説をクロボトキンが經濟學上より断明せんことを企てしもの。無政府主義に對する一切の疑義は本書に依つて始めて釋然氷解す。讀者は慧眼の批評家に於いてクロボトキンの標榜を如何に評す。必ず新人の一體を要す。

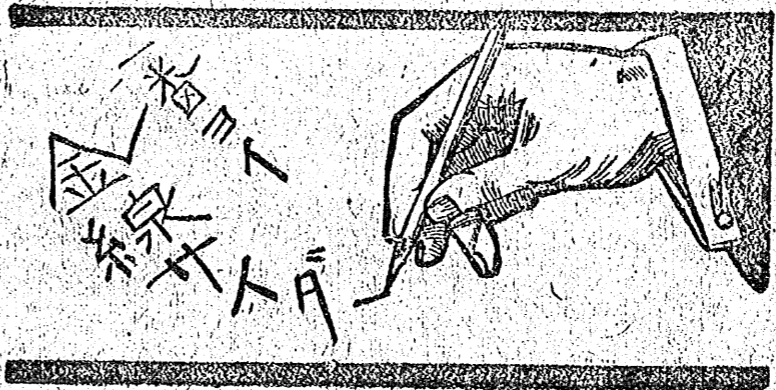
本書の目的は社會學上の組織を常識化せんとする點にある。故に社會改造の觀に參與せんとする眞摯なる諸君には無くてならぬ智識的武器である。之れを社會主義社會學と題する所以は、本書の原著者アーサー・リユイス氏が米國一流の社會主義學者であり本書を通じての著者の立場がマルクス主義に貫してあるからである。著者が社會主義的社會學の代表としてウオードの動的社會學を提出し、本書の一半を擧げて之れが解説に努めた點は特筆すべきものである。

社會主義社會學

現今社會問題勞働問題を口にする者は皆、指、洋の彼方をさし、足日本の地を離る、著者之れを慨し、社會學的批判に立脚して現代文明の表徴たる資本主義の普遍性に即し、我國に於ける其特種相を究明して本書を成せり。本書は實に現代の文藝階級たる後本家及其精神の日本に於ける時價を明らかにしたるものにして、我國現代文明の運命を知るの秘鍵なり。

我國資本主義階級の精神

東三 京市 芝目 區三 田書房 振四 替一 口八 座一 東〇 京番



態を調査した結果を發表した次第である。先づ戦争前に行はれた労働立法の一斑から、續いて開戦當時の状態に及び、以下數章に分つて、戦時労働上に起つた、諸問題に論及し、最後の二章に於て「産業的不安」と「産業的改造」の二問題を取扱つて居る。著者は事實を平易に、又詳細に叙述することを主とし、議論を避けやうとする傾が見へるが、其れにしても全體の調子は餘程革新的風潮に支配されて居る。労働黨の四大綱領を評して「労働黨の要求する所は戦前に殆ど多數の人民の考に上らなかつた社會主義的監督を承認するに就て、強要されなかつた國民に取つては、餘り急進的のものとも思はれない。政府の監督の成功した限度に應じて、其繼續され可きは勿論であつて、戦前英國に緒を開いた國民の生活状態を改善する運動は決して戦争中に起つた事實の爲めに、其勢を殺がれるものでな

い」と云つたことの如き、自らハムモンド氏自身の立場を明にしたものと云へやう。然し戦時英國に行はれた労働立法や、同國に起つた労働上の事實に就ては、既刊の書籍例へばカーカルデキー氏編の「戦争、産業并に労働」に述べられたもの以上に及んで居るとは認められない。ケロッグ、グリーンソン兩氏が如何なる人であるか、私は寡聞にして之を知るを得ないことを遺憾とする。然し兩氏の新著は一言で要領を述べれば、労働者の支配を基礎とする新社會を構成しやうとするのであつて、諸方面から此問題を論じて居る。労働黨の宣言、決議、重なる黨員の言論が議論の要處に引抄されて、讀者に深い感興を與へる。附録十四編中の多くも、外國人には一寸得難い文書として、一讀の價値があることを信ずる。